



2026年3月期(85期)第2四半期(中間期) 決算説明資料

2025年11月13日

石井食品株式会社
(東証スタンダード:2894)

イシイの
本気は、
裏に出る。

主力の食肉加工品牽引、生産性向上によりコスト抑制し営業利益は2.2億円で進捗

当期は、雇用・所得環境の改善などにより景気の緩やかな回復が期待されますが、物価上昇の長期化による影響で消費者の節約志向は依然として根強く、個人消費の本格的な回復には至っておりません。
また資源・エネルギーコスト・物流費等の製造コストは政府による物価高騰対策の影響もあり一時的に抑制されましたが、本質的な高止まり傾向は継続しており、依然として厳しい事業環境が続いております。

このような環境の中、第2四半期は主力の食肉加工品が牽引し、価格改定後もお弁当における定番商品として根強く堅調に推移しております。また、イシイのチキンハンバーグ55周年キャンペーンや創業以来初のドレッシング商品「館玉ねぎのごちそうドレッシング」発売など、定番商品だけでなく新商品投入も交えながら積極的に価値訴求を行いました。

コスト面につきましては、原材料、エネルギー費用及び物流費等の高騰への対応として、経営主導で抜本的な生産計画の効率化を実施いたしました。
「残業ありき」の生産体制から脱却すべく、生産計画の早期策定や生産ライン切替時間の削減を実行したほか、ロボット化による省人化や老朽設備刷新に伴う生産効率向上により、残業削減やエネルギー使用量の低減を実現し、第2四半期においても増収増益で進捗しております。

2026年3月期第2四半期-連結業績

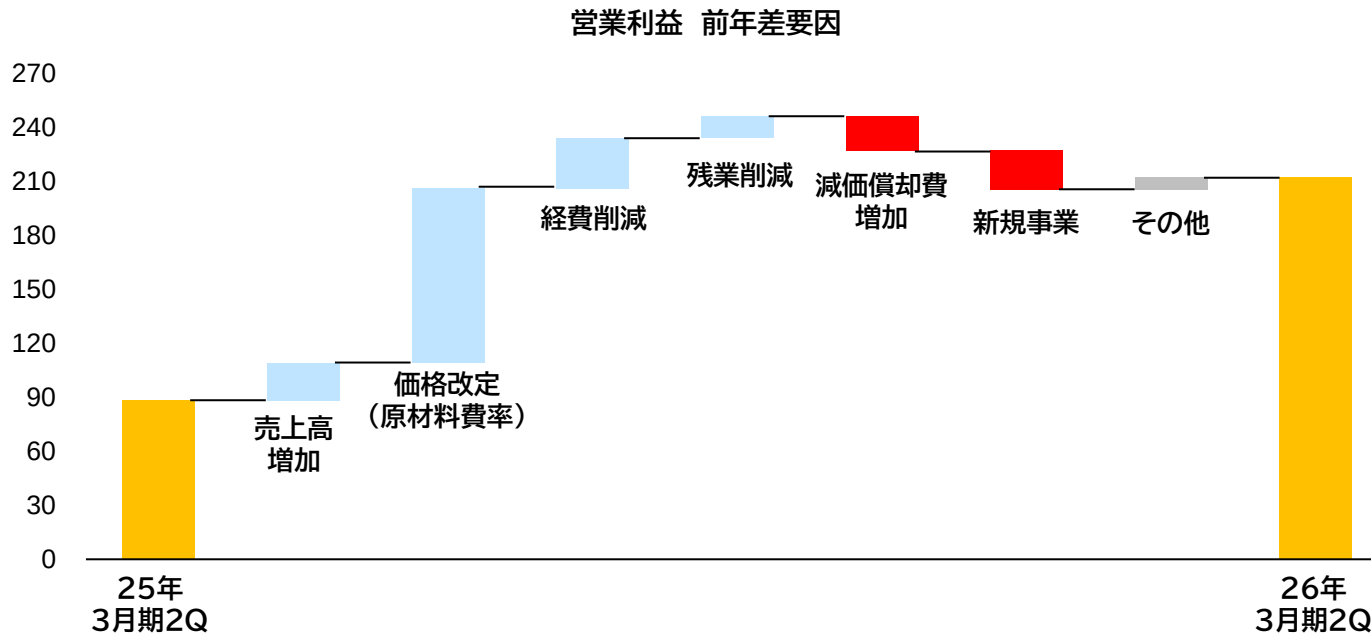
- (1) 売上高は54億円で、前年同期比0.3億円の増収。
- (2) 営業利益は2.2億円で、前年同期比1.3億円の増益。
- (3) 当期純利益は1.5億円。EBITDAは4.2億円を確保。

(単位:百万円)

	24／3期2Q	25／3期2Q	26／3期2Q	前差
売上高	5,152	5,403	5,440	+36
売上総利益	1,838	1,773	1,925	+151
営業利益	338	88	221	+132
経常利益	357	98	218	+119
当期純利益	190	34	151	+117
EBITDA	437	270	422	+151

2026年3月期第2四半期-営業利益

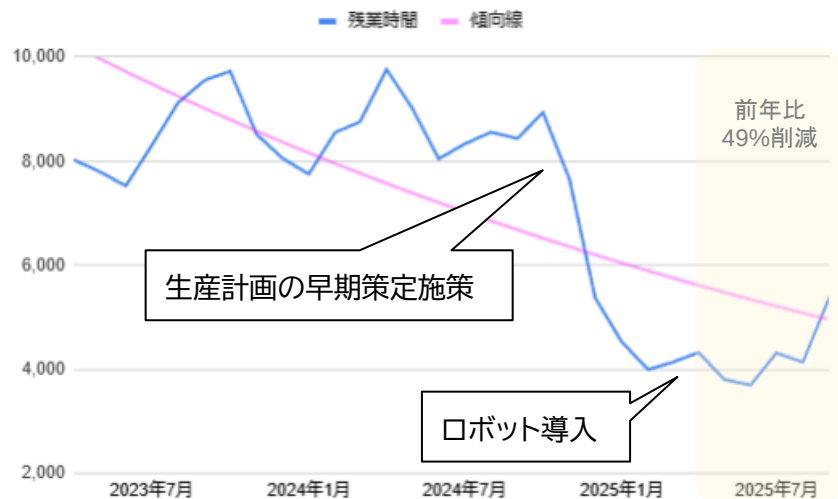
- (1) 前年同期の営業利益0.8億円から、今期は2.2億円と1.3億円の増益。
- (2) 価格改定後もお弁当定番商品としての需要は根強く、売上高は増加。
- (3) 原価高騰は継続しているが、生産計画の最適化・生産性向上に取り組み水道光熱費や残業削減の効果があつた。
- (4) 設備の更新投資及びソフトウェアの導入による減価償却費の増加、新規事業への投資は計画的に進行中。



原価高騰下での対応として、残業削減・エネルギー使用効率の改善を実現

- 抜本的な生産計画の効率化に着手し、「残業ありき」の生産体制を改める意識改革。
- 生産計画の早期策定、生産ライン切替時間の削減のほか、ロボット化による省人化や老朽設備刷新により残業時間は前年比49%削減、エネルギー使用効率は7%改善し、原価高騰下でのコスト削減を実現。

残業時間推移



梱包工程の省人化(京丹波工場)



2026年3月期第2四半期-財務状況

(1) 現預金は20億円超を安定的に確保。

(2) 純資産は約3.0億円増加。自己資本比率は前年同期比較で+5.1ptの50.5%に上昇。

(単位:百万円)

	25／3期2Q	26／3期2Q	前差
現預金等	1,801	2,008	+207
資産合計	7,453	7,965	+511
有利子負債	1,986	1,982	△3
負債合計	4,069	3,940	△129
流動比率	112.6%	123.1%	+10.5%
純資産合計	3,384	4,024	+301
自己資本比率	45.4%	50.5%	+5.1%
営業CF	△256	359	+616
投資CF	△322	△186	+136
財務CF	△77	△76	+1

2026年3月期-通期業績予想の修正

- (1) 原材料価格及びエネルギーコストの高止まりは継続しているが、各工場における生産計画の最適化、生産性向上の取組みにより、一定程度コスト高を吸収出来る見込み。
- (2) 成長のための生産設備投資及び新規事業への投資は引続き推進するため、減価償却費等一部のコストは増加。
- (3) 今後も様々な要因で変動する可能性があるため、業績予想について修正が必要となる場合は速やかに開示予定。

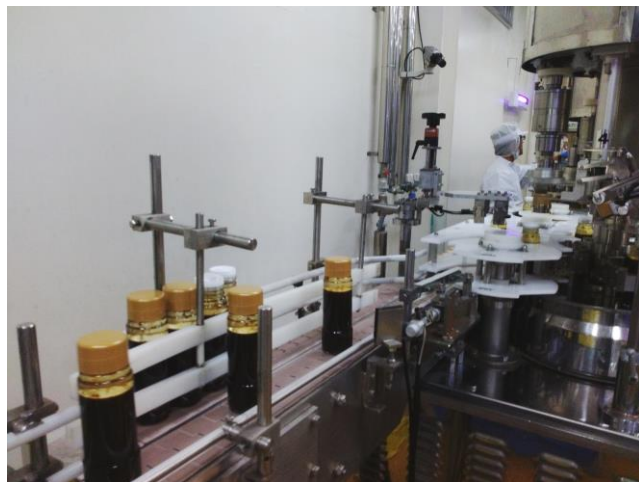
(単位:百万円)

	25/3期 (実績)	26/3期 (期初予想)	26/3期 (今回修正)	前回予想との差
売上高	10,869	11,200	11,200	±0
営業利益	267	150	250	+100
経常利益	309	200	280	+80
当期純利益	287	150	209	+59
EBITDA	657	614	703	+89

生産体制の抜本的な見直し（提携工場と連携し各地で商品を製造）

私市醸造(株)と連携し、創業以来初のドレッシング商品を発売

- 地域の食材調達を強みに持つ当社と、食酢醸造から発展したドレッシング製造の技術を持つ私市醸造(株)による共同開発で、石井食品にとっては創業以来初となるドレッシング商品「館玉ねぎのごちそうドレッシング」を発売。
- 原料や製造にこだわり「おいしいものをつくる」思いを共通項として、企業と共創する提携工場構想の第一歩をスタート。



(抜粋)2022-2026年度中期経営計画

5 生産体制の抜本的な見直し

- ・フードマイレージの抜本的削減および地球環境負荷を最低限に抑えるため、製造設備のシェアと石井食品品質が両立できる次世代型の生産体制を構築します。またそれを通し、無添加調理ができる製造施設を地域に増やします。

工場分散型の生産体制について

※当社での製造過程においては、食品添加物を使用しておりません



2026年3月期第2四半期の活動トピックス②

ISO22000、FSSC22000の認証範囲が拡大。常温ミートボール、常温ハンバーグなどが追加。

- 常に安心・安全な商品と品質、サービスをお届けすることを目的に早期からISOマネジメントシステムの認証取得に取組み。
- 2025年9月、常温ミートボール、常温ハンバーグ、米飯類などを認証範囲に追加。
- 引き続き、厳格な生産体制を構築しつつ、ローリングストックなどニーズが高まっている常温商品群の認知拡大を目指す。

ISO認証取得の推移



今回拡大された認証範囲における主な商品



本資料は情報提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。

本資料(業績予想を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいて弊社が作成したものでありますが、実際の業績等は、さまざまな要因により大きく異なることが起こります。